

---

## コム 意思の疎通

CHARAット 7

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コム 意思の疎通

### 【Nコード】

N2944C

### 【作者名】

CHARATT7

### 【あらすじ】

僕の日常は変わらない。例えば何が起きても……………

## 僕の日常

### 第一章・僕の日常

僕はそこらにいる普通の中学二年生だ。

友達と遊び、喧嘩し、泣き、笑い、恋もする。

普通の中学二年生だ。

今はホームルームの時間。

はつきり言ってホームルームなんかに興味はない。

くだらない夏休みについての説明と宿題を渡されるだけだ。  
ツンツンと横からつつかれる。

僕の席の隣の柄本飛鳥が紙を渡す。

「何だよ？」僕は柄本に先生にバレない程度で聞いた。

「いいから見て」後で話せば良いのに、よく分からない奴だ。

紙を見る。紙には“テストどうだった？”と書かれている。

「くだらねー！」

ついつい大声を出してしまった。

先生がこっちを向く。

「どうした、松島？何がくだらないんだ？立て」

先生の顔に四つ角交差点が見える。

「あ、すいません。」

夏休み何しよーかなー。とか考えてて、

何日眠らずにいけるかなーって思ったたらついっこんじやいました」

「一生寝てる！……座っていいぞ」

座わる時に柄本を見る、机に突っ伏して笑いを堪えていた。

「お前なあ」

「ツボにはまった」。松島ドジすぎ」

お前のせいだろ！

と言おうと思ったが、チャイムがなったのでやめた。

物語の主人公の日常は皆、劇的な変化を遂げるが、僕の日常は変わらない。

そう、あの神社で神様に願いを叶えてもらってからも……たいして変わらなかった。

## 僕の日常（後書き）

読んでくださりありがとうございました。宜しく願います。

## 佐々木大剛・神社

鞆に宿題を入れる。

今日から夏休みだ。

「松島！、帰ろうぜ」

佐々木大剛が僕の肩を叩く、こいつは大の女好きで、女の話ばっかしているが、悔しいことにモテるのも事実だ。

何かとうつとおしい奴だが、勉強もスポーツも何でも出来るという万能型の人間だ。

「わかった、てかお前今日部活は？」

佐々木は剣道部に入っている。

「夏の剣道とかくっさいくっさい、やってらんねーぜ！」

サボってばかりいるくせに県大会優勝の記録を持っている。こいつを見てると世の中才能が全てだな。と思ってしまう。

下駄箱で靴に履き替える。佐々木の生徒手帳が地面に落ちた。

しょうがねえな拾ってやるか。と思い、手帳に手を伸ばす。

手帳は別の手に取られた。

「佐々木君、落としたよ」柄本が佐々木に手帳を渡す。柄本と佐々木は元々、同じ幼稚園、小学校といわば幼馴染みなのだ。

「わりいな柄本。松島、行こーぜ」

「…ああ」

僕は前だけを向いて、下駄箱から出た。

「しっかしな。わくわくするな」

「何でだよ…」

「だって夏ったら夏祭り、プール、海、ナンパの季節だろ。

エンジョイしなきゃな！」

「……くだらねー」

こいつの頭は女の事しかないのか？

「僕はテストが悪くて、夏も補習だからそんなにわくわくしない」

「まあ、頑張れよ」

別れ道の神社の前に来た。

「じゃあな松島！ここの神にでもテストの点上がるように頼んだら  
」？」

佐々木はそう言い残し、走っていった。

元気な奴だ……。

しかしあいつのいう事も一里あるかも知れない。

僕は意思が弱いからな……。

僕は神社の賽銭箱に財布に入ってた15円を投げ入れた。

柏手を三回、お辞儀を一回する。

願いを心の中で叫ぶ。

“ 神様！僕に強い意思が出来ますように！”

僕の足元の5センチぐらいの石が緑色に輝いた気がした。

## 繋がり

家に帰り、コンビニで買ってきた昼御飯を食べる。  
そして、ベッドの上に寝転ぶ。  
そのまま寝てしまった。

気付いたら夕方だった。  
時間を確認しようと携帯を取りだした。  
新着メールが一件ある。  
柄本からだった。

柄本のメルアドは佐々木に教えてもらった。  
まあ中一から柄本と同じクラスだったから聞くチャンスはいくらでもあったが、ちょっとそれは出来なかった。

“今日はゴメンねm(――)m。実は私今回のテスト風邪引いててさ、予想外に悪くて補習だから、松島はどうなのかなーって思ってる”  
僕はすぐ返事を送った。

“柄本も補習なのか。  
俺はもちろん補習(笑)”

三分ぐらいすると携帯が鳴った。  
僕はすぐに携帯を開く、佐々木からの電話だった。  
一応電話にでる。

「なんだよ……」  
「えらい不機嫌だなー！  
俺なんかしたか？」  
「ああ！充分したさ！  
「いや、別に……」



「ならいいんだけどさ！」

今年の夏祭り俺、彼女と行くから。お前もちまましてないで柄本誘っとけよ！じゃ！」

電話は一方的に切れた。

夏祭りって補習あるしな……。

携帯がまた鳴った。

僕はさつきと違いゆっくり携帯を開く。

柄本からのメールだった。“ふん。やっぱり松島は補習かあ”(笑)

よかつたら補習一緒に行かない？”

僕はもう一度メールを見る。

柄本とは家自体は遠いが、僕の学校は今年の夏休みに改装工事をするため、補習はバスで二十分かかる図書館を借りて行うのだ。

僕は“冗談？”等という、簡単なメールを送ってしまった。

二分くらいしてメールがきた。

“冗談じゃないよ(……)”

だって私と松島は数学の補習だけど同じクラスの人はみんな英語だから時間が違うんだよ。

松島がいやなら独りで行くけど……”

僕はすぐに返事をした。

“いや、別に嫌なわけじゃないけど、いきなりだからびっくりしたんだ。”

ここまでは簡単に打てた。この次の文章を打つのにかなり手間取った。

“じゃあ補習一緒に行こうぜ”

送信ボタンを押した。

一分もたたない内に返事がきた。

“びっくりしたか”(笑)

じゃあ明後日、学校前のバス停に八時ね。遅れないでよ(笑)”

“わかった”という単調なメールを送った後、僕は無意識に拳を強

く握り締めていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2944c/>

---

コム 意思の疎通

2010年12月2日15時55分発行